

## 視察園概要①

(株)いちごいちえ

代表取締役：佐藤 拓実（33歳）



視察場所：山元町浅生原新田58  
TEL：050-3805-1518  
役員：3名  
社員：7名 内正社員2名（内女5名）  
パート：2名（内女 2名）



### 1. 経営内容

#### 「農業にミライあるカタチを～」

2011年3月11日発生した東日本大震災の1年後に、会社設立。  
地域の基幹産業である「いちご産地」を継承し、20～30代の若い世代の  
仲間と今後の地域農業を担う会社経営を目指す。

震災をきっかけに、未来に向かって取り組むため、新しいスタイルでの農  
業を提案したいと考えている。

※「一莓一笑」は一生に一度となるこの出会いに、今できる最高のおもてなしをするという「一期一会」をもじり、社名とした。  
※自社ブランド「いちいちご」は、3.11の後「3.11からGO!!」という、思いを込めている。

#### 〈経営の特徴〉

- ① 技術革新・風土と共に生き、科学的な農業実践  
生産状況を生産者の目でしっかり確認しながら、最新システムで品質の徹底管理を行っている。～記録と改善で生産性を高める  
・純粋製造装置 ・環境制御システム ・マルハナバチによる受粉  
・R&Dの実践 ・夜冷庫 ・日射管理のできる育苗ハウス
- ② 高品質生産、お客様の視点を忘れない生産。  
お客様の用途に応じたパッケージを提案し、社員一人一人の思いを一粒に込め、お客様の笑顔に出会いたいと考えています。  
・自社トレイサビリティによる生産工程管理  
・IPMの実践 ・当日配達事業～最適な状態をお届けできる取り組み
- ③ 未来に向かって新たな価値を創造していく。  
「いちいちご」の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい。  
・新たな商品開発 ～いちご麺、カタラーナ

### 2. 採用実績

平成24年度 2名／平成25年度 1名／平成26年度 2名

### 3. 経営規模

園芸施設面積： 8,500㎡（85a）

いちご（品種：もういっこ、とちおとめ）  
冷凍いちご

加工品販売：平成27年3月販売開始  
（委託加工）「苺麺」「Fresa de tesoro」

年商（年間販売額 H26実績）：5千万円

4. 出荷販売先 直売：市場出荷 =5割：5割

※ 市場：仙台、山形



## 5. 佐藤社長のプロフィールと法人化の経緯

- 1982年（昭和57年）生。
- 2002年ヤマト運輸に入社。2005年に、家業のいちご農家に転身、就農する。
- 就農6年目の2011年3月、東日本大震災で全滅。山元町の8割の農地が浸水し、いちご生産施設の9割が壊滅的な被害にあった。一時は、130戸の農家が10戸までに減少した。
- 震災後はじめは、「正直（いちご栽培は）そこまで儲かるものでは無かったので、決断するまでは、非常に悩みました。」
- 周囲の人々と話しをする内に、経営主が亡くなってしまったり、廃業すると言われたり、やりたいけどできない人が多く、‘グループとしてまとめない産地が維持できない！’と考えるようになった。
- 震災から1年後の、2012年3月に、仲間3人の共同出資で会社を立ち上げた。

## 6. 就農のきっかけ（決意した出来事）

家業のいちご農家になったときは、前会社の拘束時間が長く、子供が生まれた頃だったので、家族と一緒にいる時間を持ちたかった。

農業は、労働時間が多いと思われるがちだが、作業は、日中のみ。（その分、ハウス管理などで休日は、無いが・・・）

法人化を決意したときは、「やっぱりいちごで生計を立てたい。と言う想いと娘の「もう一度、お父さんが作ったいちごを食べたい。」の声背中を押してくれた。

## 7. 力を束ね法人化に挑戦

- 「若い世代だから頑張る」  
～若い自分たちが、会社として地域農業の担い手となることで、産地の維持・発展に貢献したいと考えている。  
～巨理山元町には、以前400人ほどのいちご農家があった。JAリース事業でいちご団地での経営を開始しているが、60代が中心。今後10～20年後高齢化しても生産継続可能な環境の整備が必要と考えている。  
（→いちごのパック詰めから出荷販売までの受託など。）
- 「新しい生産スタイル」  
～復興事業の活用では、従来の栽培法を見直し、生産設備を整え、生産性を高めることが求められた。また、雇用の面からも周年出荷体制が求められる。
- 事業開始には「予想外のハプニングも」  
～業者の人員不足や資材の不足から、ハウス建設が遅れ、11月完成予定が翌年2月にまでずれ込んだ。  
いちごの出荷は、11月から翌年6月まで。1日300kg。年間60トンを目標としていたが、収穫は、15%程度となった。さらに、次年度の育苗にも影響。計画どおりに進まないことも多かった。「今が辛抱どころ！」と自分に言い聞かせた。

## 8. 新規参入者希望者へ一言

- 当社では、女性社員が多く、通称「サンダル農業」で働きやすい環境と衛生管理に取り組んでいます。
- 社員には、新規参入者もいる。農家が気づかない発想など、良い刺激になっています。